

うらさと 学校だより24

24. 12. 27 NO. 16

2学期を終えることが出来ました

改めて、各方面の皆様方に、心より感謝申し上げます。2学期をこうして終わることが出来ますことは、本当にたくさんの皆様方の「おかげさま」です。

<終業式 校長講話から>

(前略) 南校舎が残りました。のこった南校舎で、私たちは学校生活を行うことができました。1・2・3年生の教室の机やイスは、近くの学校から全て頂きました。それらはすべて新しい机とイスです。他にもたくさんのものを本当に多くの人から、温かい心と共に頂くことができました。昨日のコカリナもその一つです。私たちはこの3ヶ月余の間、皆で心を寄せ合い、手を携え、一日一日を大切に過ごしてきました。予定していた行事も予定通り行うことができました。運動会はとてもすばらしいものでした。私には、一生忘れられないものになりました。

しかし、それにも増して私がすばらしいと思ったことがあります。それは毎日のみなさんの生活です。あれだけの悲しくつらい出来事があった後にもかかわらず皆さんの生活は、すばらしく見事でした。その姿にどれほど元気ももらったことか、感謝したいと思いますし、心からの大きな拍手を送ります。

(中略) 私は、3学期はもちろんですが、この休み中でもみなさんに心において生活して欲しいことがあります。繰り返すようですが、それは「私たちが、この3ヶ月余り学校生活が無事に送れたのは、多くの皆さんに支えてもらってきたからだということです」。昨日のコカリナプロジェクトの皆さんもそうでした。駅前テレビの皆さんもそうでした。あのように心配し、何かできることはないかと考えてくださった方々がたくさんいらっしゃったから、私たちは、今2学期の終業式を迎えることが出来るのです。

そうしたほんとうにたくさんの皆さんの温かい思いや優しさに勇気を得て前向きで積極的な生活を心して欲しいということです。多くの知らない方々の温かい思いや支えにより、こうして過ごして来られたということを、しっかり心に留めて生活してもらいたいのです。本当にたくさんの人々の気持ち(私たちが思っている以上に多くの人々が応援してくれています。)それが自分を大事にして生活することにつながっていくのですから。(後略)

ABN駅前テレビ 来る

駅前テレビの主演者・スタッフの皆さんが浦里小の体育館にやってきました。そして、一足早いクリスマスパーティーが繰り広げられました。



当初、硬かった子どもたちも徐々に雰囲気馴染み、手拍子をしたり、曲に合わせて体を動かしたりしている姿を見ることができました。三四郎さんの問いかけや話にも耳を傾け、身じろぎもせずに集中して見入っている、聞き入っている姿を見ることが出来ました。何より、良かったのは、輝くような笑顔があちらこちらに見られたことです。

ちらに見られたことです。

「今年は浦里小の皆のところには、必ずサンタクロースが来るよ」という三四郎さんの言葉に思わず頷いている自分がいま



した。この時「一陽来復」という言葉が私の心には浮かんでいました。「わるいことがあった後には、良いことがきっとある」という意味です。昨年度の卒業生に贈った言葉です。子どもたちの「これから」に新しい希望や明るい光が見えるようにしなければならぬと思いました。

大根，豊作。できれば最高

今年の大根は、立派です。11日～14日まで行った保護者懇談会に併せて、6年生が保護者の皆さんに大根の販売を行いました。多くの皆さんに調理室に立ち寄っていただき、購入していただきました。それでも中央廊下には、ブルーシートに包まれた大根が、所狭しと並べられていました。「どうしよう？」と思うほどに大豊作でした。協力いただいた保護者のみなさん、ありがとうございました。また、販売をしてくれた6年生のみなさんお疲れ様でした。

今日も、下校していく子どもたちの中には、袋に入った大根を下げている姿があります。一人一人へのお土産だということで、6年生が準備してくれました。その日の夕食はおでんでしょうか。それともお味噌汁の具になるのでしょうか。一緒に大根を調理していただいてもいいですね。



コカリナ手元に 演奏に聞き入る

コカリナの贈呈式が、25日の3時間目にありました。燃えてしまった校舎の木を用いてのコカリナです。たくさんの皆さん（400名以上）が製作にかかる費用をご寄付いただき、コカリナを入れる袋も手作りして

くださいました。地域の有志の皆さんをはじめ全国各地の方々のご支援・ご協力により製作されたことを伺いました。本当にたくさんの方々の大きくあったかい思いの込められた「コカリナ」です。その大きくあったかい思いの込められたコカリナは、これから



らずっと子どもたち一人一人の人生を守ってくれる「御守り」のようにも見えました。

どんな状況になってもくじけず、あきらめず、倒れたらまた立ち上がり歩を進めいく、そうした力・勇気を子どもたちにもたらしてくれるように思いました。黒坂先生をはじめプロジェクトの皆さんに心から感謝いたします。ありがとうございました。



正直、学校で子どもたちにどのように向き合えばいいのかとためらいを覚えた日もありました。そんな時には、子どもたち一人一人の顔を思いました。保護者の皆さんを思いました。そして地域の皆さんを思いました。この現実をずっと抱えていかなければならぬたくさんの皆さんのことを思いました。ある方に「あなたには、子どもたちのためにできることがある」と言われました。私に出来ることを全力で行うこと、それは浦里小学校の職員である私たちにしか出来ないことだと思いました。しかし、つらさは、今も変わりません。平成24年が過ぎようとしています。今年一年本当のお世話になりました。

多くの方に支えていただき学校があること、私たち教師が子どもの前に立てているのはその支えのおかげであることを強く感じたことはありませんでした。様々なお支え、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。皆様にとって、穏やかな年の始まりでありますことを祈念申し上げます。

文責 学校長 滝澤 俊明